

令和元年度事務事業評価シート(平成30年度実績)

◎基本情報

事務事業名	特別支援教育推進事業		担当部署	教育委員会 学校教育課 教育支援室	
総合計画体系			根拠法令計画など	学校教育法	
基本政策(大項目)	2	ずっと笑顔で生きがいを感じるまちづくり	事業期間	開始	平成 <input type="text" value=""/> 20 年度
政策(中項目)	3	たくましく生きる力を育むまち なんと			終期
(小項目)		学校教育			
施策	3	義務教育の充実			
基本事業	4	特別支援教育の充実			

◎事業概要(PLAN)

事業対象	誰(何)を対象にしているか	<input checked="" type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 内部管理 市内の小中学校						
事業目標	対象をどのような状態にしたい(目指す)のか	特別な支援を必要とする児童・生徒の学習や学校活動上の困難が改善・克服された状態。子どもの発達や特別支援教育に関する保護者や教職員の理解が向上した状態。						
事業計画	30年度に何を計画していたか	前年度の配置効果等を十分に検討し不足する支援員の充実を図る。 子どもの発達や特別支援教育への理解を深めるよう研修を実施する。 鳴門教育大学との連携のもと学生の意向を尊重したうえで、特別支援教育サポーターを50名程度配置。特別支援学級合同交流会の作品製作に係る消耗品の購入費を支援する。 市内小・中学校のすべての特別支援学級にタブレットを配置する。						
成果目標	事業目標の達成度合	指標名	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	単位
		特別支援教育支援員の配置人数	20	20	21	21	21	人

◎実施結果(DO)

事業実施内容	30年度は目標を達成するため、手段としてどのような活動を行っているのか	前年度の配置効果や学校からの要望内容を検討し、支援員を配置した。 ・特別支援教育支援員の配置:20名 ・鳴門教育大学との連携のもと学生の意向を尊重したうえで、特別支援教育サポーターを23名配置。 ・特別支援学級合同交流会の作品製作に係る消耗品の購入費を支援。 市内の全特別支援学級(小学校41学級・中学校17学級)にタブレットを配置した。						
事業実施手法		<input checked="" type="checkbox"/> 市実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他						
		指標名	29年度実績	30年度実績	元年度目標	2年度目標	3年度目標	単位
活動指標	1	特別支援教育サポーターの登録人数	25	23	50	50	50	人
	2							
成果指標	特別支援教育支援員の配置人数		19	20	-	-	-	人
	目標達成率(実績/目標)			100.0	-	-	-	%
今年度の進捗状況		計画どおり		事業全体の進捗状況		計画どおり		

(千円)

財源内訳	年度	区分	国	県	地方債	その他特定財源	一般財源	事業費計
	平成30年度	当初予算額	0	0	0	10,100	34,883	44,983
		補正予算額	0	0	0	0	△ 1,717	△ 1,717
		繰越予算額	0	0	0	0	0	0
		全体予算額	0	0	0	10,100	33,166	43,266
		決算額	0	0	0	10,100	32,250	42,350
		繰越額	0	0	0	0	0	0
	人件費	正規職員(7,321千円/人)	臨時職員(2,125千円/人)		総人件費		総事業費	
		0.5	0.0		3,661		46,011	

事業費推移	年度	29年度決算	30年度決算	元年度	2年度	3年度
	事業費	28,552	42,350	34,941	34,941	34,941
	うち一般財源	28,552	32,250	34,941	34,941	34,941
	人件費	3,617	3,661	3,661	3,661	3,661
	総事業費	32,169	46,011	38,602	38,602	38,602

◎項目別評価(CHECK)

評価項目		評価値		所見欄
①活動に対する評価	有効性	B:概ね有効性があった		特別な支援が必要な子どもたちの学習や学校活動上の困難が改善・克服されている。
	効率性	B:概ね効率的だった		限られた人員の中で、支援を必要とする子どもたちに、効率的に支援員の配置を行った。
②成果に対する評価	指標名	特別支援教育支援員の配置人数		年度途中での退職もあったが、計画どおりの人数を配置できた。
	目標	20	人	
	実績	20	人	
	評価	A:目標を達成できた		
③総合的な評価		B		学校現場からは支援員の増員を強く求めており、特別支援教育に係る学校現場の人員を確保する必要がある。

◎今後の方向性(ACTION)

課題	支援員やサポーターを必要とする幼児・児童・生徒の増加等により、学校現場からは支援員の増員を強く求められており、特別支援教育に係る学校現場の人員を確保する必要がある。また、入学後あるいは学年途中でも教育的判断から支援員の配置が必要となった場合に、臨機応変に対応できるような体制の整備が急がれる。 また、特別支援教育に係る学校現場をサポートするため、引き続きサポーターの登録を推進していく必要がある。				
今後の方向性	1.廃止	2.要改善	3.現状維持	4.拡充	3
↓今後の方向性を踏まえた上で、以下の欄に記入してください。					
実施内容	R1年度	前年度の配置効果や学校からの要望内容を検討し、支援員を配置する。			
	R2年度	継続実施			